

連載 展着剤を上手に使うための基礎と応用(4)

丸和バイオケミカル(株) 技術士

川島 和夫(かわしま かずお)

VIII 使用上の注意事項

主要な展着剤の使用上または保管上の注意事項についてラベル記載内容や登録・販売会社からの技術情報をもとにグループ別に説明する¹⁾。

1 エステル型ノニオン系展着剤

はじめに代表的な製品であるアプローチ BI (ポリオキシエチレンヘキサン脂肪酸エステル：50%) の注意事項を紹介する。薬効・薬害に関して適用農薬の使用上の注意事項に、薬害の生じやすい作物、気象条件等が記載されている場合、作物の幼苗期、高温時等、一般に薬害の生じやすい条件では使用を禁止している。さらに具体的にスルフェン酸系、ジチアノン系、キノキサリン系、ストロビルリン系、アニリド系薬剤に薬害を生じる恐れがあり使用を避けるように明記されている。植調剤のジベレリンへの添加についてはアドウの樹勢や開花の状態、使用時期、気象条件やさび果の助長の恐れ等が詳細に注意事項として記載されている。

次にスカッシュ (ソルピタン脂肪酸エステル：70%、ポリオキシエチレン樹脂酸エステル：5.5%) の注意事項。本剤は低温 (10℃以下) で放置された場合、一部沈殿を生じる場合があるので使用前に加温して均一な液体にしてから使用するよう注意事項が記載されている。アプローチ BI と同様に薬害の生じやすい条件での使用を禁止し、具体的な薬剤も同様に明記されている。一般展着剤であるハイテンパワー (ポリオキシアルキレン脂肪酸エステル：30%) は一般的な注意事項以外に特別な記載はない。

最後に K.K ステッカー (ポリオキシエチレン樹脂酸エステル：70%) の注意事項について紹介する。エステル型ノニオン系固着剤であるが、適用農薬と適用作物が広いことから広く使用されており、使用上の注意について稲、麦、キャベツ、ネギ等のように薬液のつきにくい作物に使用する場合は多めに、果樹、ハクサイ、キュウリ、パレイショ等の薬液のつきやすい作物の場合には少なめに添加すること、本剤を散布液に加えるときは必ず

最後に添加して散布液を十分かきまぜれば良好な散布液が得られることが明記されている。

2 エーテル型ノニオン系展着剤

まず除草剤専用であるサーファクタント WK (ポリオキシエチレンドデシルエーテル：78%) について紹介する。除草剤以外には使用しないこと、適用農薬の使用条件を遵守すること、作物にできるだけかからないように散布することが記載されている。環境面では水産動植物に影響を及ぼすため、養魚田での使用の禁止や散布後は河川・養殖池等に流れ込まないように水管理を注意するように明記されている。茎葉処理型除草剤専用であるクサリノー (ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル：50%) もほぼ同様な記載内容である。

次に適用農薬が殺虫剤・殺菌剤であるミックスパワー (ポリオキシエチレンアルキルエーテル：40%、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル：40%)。本剤には薬効・薬害に関して果菜類では散布液が乾きにくい条件下でコルク斑などの薬害症状が発生する恐れがあること、夏期高温時に薬害が生じる恐れがあることから使用をさけるように記載されている。水産動植物への影響についても同様に使用禁止の注意内容である。

最後に適用農薬や適用作物の多い一般展着剤であるアイヤーエース (ポリオキシエチレンアルキルエーテル：10%) は薬効・薬害に関して、適用農薬の使用上の注意事項を遵守すること、稲・麦・キャベツ・ネギ等の薬液のつきにくい作物ではやや多め、果樹・ハクサイ・キュウリ等の薬液のつきやすい作物では少なめに添加するように記載されている。

3 アニオン配合系展着剤

グラミン S (ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル：15%、ポリナフチルメタンスルホン酸ナトリウム：4%、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル：5%) は適用農薬および適用作物が広いことから、一般展着剤として殺虫剤や殺菌剤に使用されている。グラミン S の注意事項はかなり簡単な内容であり、消泡機能をもつことから泡の消えにくい剤 (ポリオキシ剤など) に多め